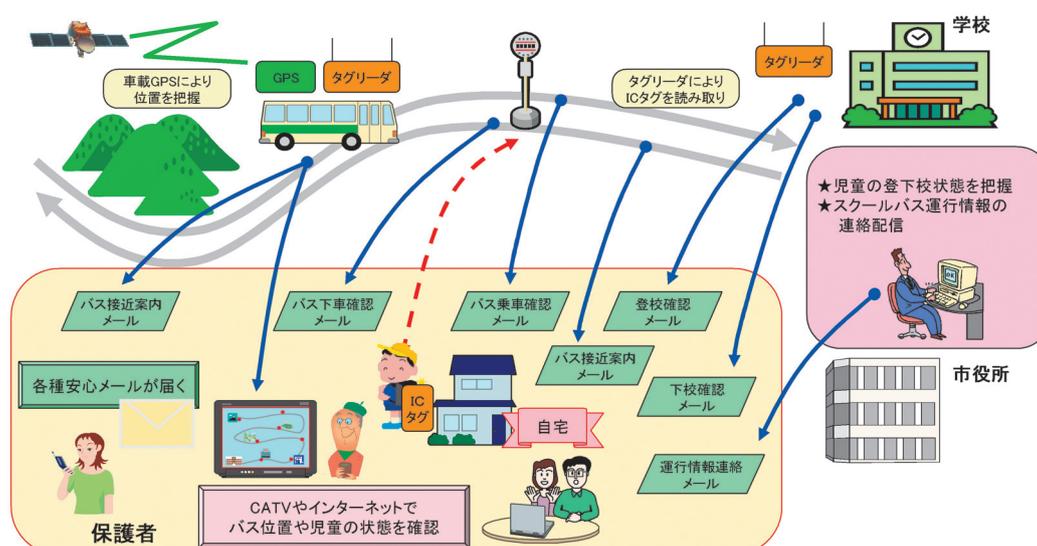


2.1.4 氷見市スクールバス通学児童見守り事業(富山県氷見市)

【概要】

氷見市は、能登半島の付け根に位置し、富山湾に面した中山間地の多い人口約5万人の地方都市です。

最近では少子・高齢化と過疎化が進み、学校統合により子どもはスクールバスによる通学が非常に多くなっています。小さな集落が点在するため、スクールバスの運行距離は長く、さらに冬季は雪により運行時間の乱れが大きくなります。子どものバス停での待ち時間が長くなると、不審者による被害や交通事故の危険性が高まるほか、下校時には自宅から離れたバス停までの人気の無い山道を心配して児童の祖父母がバス停まで迎えに出ることも多いのですが、バスの遅れによる待ち時間の増大は高齢者にとって大きな負担となっています。



そこで、子どものスクールバスへの乗降や小学校への登下校を確実に把握し、同時にスクールバスの運行状況がGPSによりリアルタイムに確認できる、「子ども位置常時把握タイプの児童見守りシステム」の導入が図られました。

【平成18年度 地域児童見守りシステムモデル事業】

【コラム】

このシステムで実現する機能を記します。

① 登下校確認

児童用玄関等に設置されたアクティブ無線タグ読取装置でアクティブ無線タグが検知されると、管理サーバへ情報を送信し、登録された保護者に見守り通知メールを送ります。

② 情報提供

児童の乗り降りする地点（バス停）を事前に登録しておき、スクールバスの到着状況を自宅のPCや携帯電話にメール通知し、運行時間の変動に対応します。

③ 状態把握

児童の登下校状態やスクールバスの位置情報を、テキストや簡易図により PC、携帯ブラウザ及びCATV画面から参照可能とします。(アナログ放送の終了にあわせ、CATVによるバス位置確認放送を終了)

④ 危険通報

通学路における危険情報をWeb連携システムと連動し、保護者メールアドレスへメール送信します。



特集 3

あなたが住む街の安心安全への取組

次に、成果を記します。

① システム面

スクールバスへの児童の乗降情報、バスの位置・発着時間等の運行情報、学校への児童の登下校情報を、家族等に対し多メディアで提供することができました。

② 運用面

不審者情報等の緊急情報配信が、素早く保護者に対し連絡できるようになりました。

[事業費(うち、国からの補助額・委託額等)]

6,724万円(総務省、地域児童見守りシステムモデル事業)

(問い合わせ先)

氷見市企画政策課 ヒューマンメディア推進班

e-mail: humanmedia@city.himi.lg.jp

TEL: 0766-74-8201

出典: 地域児童見守りシステムモデル事業 事例集

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/2009/pdf/090109_2_sk.pdf

児童見守りシステム導入の手引書

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/2009/pdf/090109_2_tb.pdf